

第 59 期  
中 間 報 告 書

(平成30年 4 月 1 日から)  
(平成30年 9 月 30 日まで)

fligan

---

愛眼株式会社

証券コード 9854

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、日ごろより格別のご支援を賜り誠にありがたく厚くお礼申しあげます。

さて、当社は平成30年9月30日をもって第59期第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）を終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな景気回復基調で推移いたしましたが、米国の通商政策動向など海外の政治・経済情勢の不確実性が影響し、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費につきましても、消費者マインドに改善の兆しが見えるものの、未だ本格的な回復には至っておりません。

このような状況のもと当社グループは、お客様からの支持・信頼の獲得に照準を当てた諸施策による事業収益の拡大を最重点課題とし、経営資源の効率的な活用を進め、成長軌道の一段高いステージへのステップアップを図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の既存店売上が前年比で僅かながら上回ったものの、売上高では8,544百万円（前年同四半期比0.8%減）と若干前年を下回り、売上総利益率は、主に品種別の売上構成比の変化の影響によって0.7ポイント減少しました。一方、経費面では、経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は5,599百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。この結果、営業利益は246百万円（前年同四半期比25.3%減）、経常利益は299百万円（前年同四半期比16.6%減）となりました。また、特別損失として減損損失28百万円を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は196百万円（前年同四半期比24.1%減）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

### 【眼鏡小売事業】

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた安心の視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した愛眼ブランドの強化を推進してまいりました。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとして、幅広い年齢層の多岐にわたるニーズに対応した快適で機能的な高付加価値商品を開発することで、品質・価格の両面において、競争力があり、お客様にとって納得の商品の品揃えの拡充

に取り組んでおります。

売上高につきましては、主に低価格帯商品の販売数の減少等により伸び悩みました。品別では、サングラスは、販売促進を進めましたが、売上は、前年同四半期比で若干減少しました。一方、補聴器は、販売促進を強化したことに加え、店舗におけるお試しレンタルサービスとアフターケアがお客様より好評を得ており、引き続き順調に推移しております。

店舗につきましては、2店舗を閉店し、既存店の活性化を目的とした改装を8店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は8,187百万円（前年同四半期比0.5%減）、セグメント利益は307百万円（前年同四半期比21.2%減）となりました。

#### 【眼鏡卸売事業】

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する新規開発商品の投入や販売支援に努めるとともに、新規取引先の開拓に取り組んでおりますが、売上高は235百万円（前年同四半期比3.8%減）となり、セグメント損失は0百万円（前年同四半期はセグメント損失0百万円）となりました。

#### 【写真館事業】

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、お得な写真プランの充実を図るとともに、七五三写真前撮りキャンペーン、成人式振袖レンタルキャンペーン、卒業式袴キャンペーンなどを展開し集客に努めましたが、市場競争激化により厳しい状況が続いております。

この結果、写真館事業における売上高は45百万円（前年同四半期比16.7%減）、セグメント損失は36百万円（前年同四半期はセグメント損失35百万円）となりました。

#### 【海外眼鏡販売事業】

海外眼鏡販売事業につきましては、中国での競争環境が引き続き厳しい状況にあるなか、既存店の採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は75百万円（前年同四半期比4.0%減）、セグメント損失は6百万円（前年同四半期はセグメント損失6百万円）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご厚情を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成30年12月

代表取締役社長 下 條 三千夫

## 企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第56期 (平成28年3月期)	第57期 (平成29年3月期)	第58期 (平成30年3月期)	第59期(中間) (当連結累計期間) (平成31年3月期)
売 上 高(百万円)	16,563	15,957	16,344	8,544
経 常 利 益(百万円)	210	11	317	299
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失(△)(百万円)	43	△390	181	196
1株当たり四半期(当期) 純利益又は1株当たり(円) 当期純損失(△)	2.24	△20.11	9.34	10.10
総 資 産(百万円)	17,334	16,773	16,849	17,000
純 資 産(百万円)	14,438	13,991	14,171	14,311
1株当たり純資産額(円)	743.90	720.88	730.18	737.40

## 株式の状況 (平成30年9月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 60,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 21,076,154株  
 (3) 株 主 数 21,237名  
 (4) 大 株 主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
有 限 会 社 佐 々 興 産	2,138 千株	11.02 %
愛 眼 共 栄 会	885	4.56
愛 眼 従 業 員 持 株 会	771	3.97
株 式 会 社 瑞	635	3.27
佐 々 栄 治	634	3.27
佐 々 千 恵 子	442	2.28
佐 々 善 二 郎	399	2.06
野村信託銀行株式会社(投信口)	360	1.86
下 條 三 千 夫	316	1.63
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	304	1.57

(注) 持株比率は、自己株式(1,667千株)を控除して計算しております。

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (H30. 3. 31現在)	当第2四半期末 (H30. 9. 30現在)	科 目	前期末 (H30. 3. 31現在)	当第2四半期末 (H30. 9. 30現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	8,636	8,846	流動負債	1,999	2,065
現金及び預金	5,014	5,659	支払手形及び買掛金	540	660
受取手形及び売掛金	937	827	未払法人税等	186	143
有価証券	300	—	賞与引当金	120	131
商品及び製品	2,177	2,100	その他	1,152	1,130
原材料及び貯蔵品	36	36	<b>固定負債</b>	<b>678</b>	<b>622</b>
その他	173	224	繰延税金負債	49	51
貸倒引当金	△3	△3	再評価に係る繰延税金負債	6	6
<b>固定資産</b>	<b>8,213</b>	<b>8,154</b>	資産除去債務	336	334
有形固定資産	3,076	3,090	リース債務	124	69
建物及び構築物	1,022	991	その他	160	160
土地	1,887	1,887	<b>負債合計</b>	<b>2,677</b>	<b>2,688</b>
リース資産	17	8	<b>純資産の部</b>		
その他	149	202	株主資本	16,497	16,635
<b>無形固定資産</b>	<b>49</b>	<b>38</b>	資本金	5,478	5,478
リース資産	38	29	資本剰余金	6,962	6,962
その他	10	8	利益剰余金	5,108	5,245
<b>投資その他の資産</b>	<b>5,087</b>	<b>5,025</b>	自己株式	△1,050	△1,050
投資有価証券	1,050	1,055	その他の包括利益累計額	△2,325	△2,323
敷金及び保証金	3,400	3,338	その他有価証券評価差額金	113	118
その他	636	630	土地再評価差額金	△2,471	△2,471
<b>資産合計</b>	<b>16,849</b>	<b>17,000</b>	為替換算調整勘定	31	28
			<b>純資産合計</b>	<b>14,171</b>	<b>14,311</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>16,849</b>	<b>17,000</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第 2 四半期(累計) (H29. 4. 1～H29. 9. 30)	当第 2 四半期(累計) (H30. 4. 1～H30. 9. 30)
売上高	8,610	8,544
売上原価	2,656	2,698
売上総利益	5,954	5,846
販売費及び一般管理費	5,624	5,599
営業利益	330	246
営業外収益	64	76
営業外費用	34	22
経常利益	359	299
特別損失	5	34
税金等調整前四半期純利益	354	265
法人税、住民税及び事業税	94	69
法人税等調整額	1	0
法人税等合計	95	69
四半期純利益	258	196
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	258	196

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第 2 四半期(累計) (H29. 4. 1～H29. 9. 30)	当第 2 四半期(累計) (H30. 4. 1～H30. 9. 30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	625	567
投資活動によるキャッシュ・フロー	△154	199
財務活動によるキャッシュ・フロー	△285	△117
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	184	648
現金及び現金同等物の期首残高	2,144	2,249
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,328	2,898

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 会社の概況 (平成30年9月30日現在)

商号	愛眼株式会社
本社	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号
設立	昭和36年1月11日
資本金	5,478百万円
主要な事業内容	当社グループは、眼鏡・サングラスその他関連商品を取り扱う眼鏡専門店チェーンと写真館を展開しております。
従業員数	743名 (ほか平均臨時従業員数423名)
店舗数	眼鏡店 234店舗 写真館 3店舗
連結子会社	2社

## 役員 (平成30年9月30日現在)

取締役会長	佐々栄治
代表取締役社長	下條三千夫
取締役	菅野忠司
取締役	下條謙二
取締役	佐々昌俊
取締役	森重洋一
常勤監査役	叶雅文
監査役	吉岡一彦
監査役	山田吉隆

- (注) 1. 森重洋一氏は、社外取締役であります。  
2. 吉岡一彦及び山田吉隆の両氏は、社外監査役であります。

## 株主優待

3月31日及び9月30日現在、当社の株式を次のとおりご所有の株主様に対し、株主優待割引券を贈呈します。

[メガネ]	・100株以上500株未満ご所有	30%割引券1枚
	・500株以上ご所有	30%割引券2枚
	(但し、特別限定品は20%割引)	
[補聴器]	・100株以上ご所有	10%割引券1枚
	(但し、特別限定品は除く)	

## 株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	(1) 定時株主総会・期末配当 3月31日 (2) 中間配当 9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 (郵便物送付先)	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL)	<a href="https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
公告の方法	電子公告 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
上場証券取引所	東京 市場第一部

### <ご注意>

#### 【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

#### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

ホームページアドレス <http://www.aigan.co.jp>